

## アジア経済研究所図書館中東・北アフリカ関連コレクション (特集 続・地域関連コレクション -- 中東・アフリカ・ラテンアメリカ)

著者	高橋 理枝
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) <a href="http://www.ide.go.jp">http://www.ide.go.jp</a>
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	186
ページ	6-8
発行年	2011-03
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2344/00004282">http://hdl.handle.net/2344/00004282</a>



中東・北アフリカ

# アジア経済研究所図書館 中東・北アフリカ関連コレクション

高橋理枝

アジア経済研究所では、図書資料部が設置された当初から、中東・北アフリカ関係資料を精力的に収集してきた。また資料を収集するだけでなく、日本における資料の所蔵状況を調査し、『イスラーム関係資料総合目録』（一九六一年）、『中近東関係資料総合目録』（一九六五年）を刊行してきた。

当館の中東・北アフリカ関連コレクションについては、『アジア研ワールドトレンド』No.六三（二〇〇〇年一月）およびNo.九〇（二〇〇三年三月号）にも詳しく紹介されているので、本稿では近年の収集状況と蔵書の傾向について報告する。現在当館で所蔵する関連資料は、図書二万五二五一タイトル、雑誌一六一四タイトルである。なお蔵書数は二〇一〇年十二月末現在のものである。

## ●和書、欧米語、欧米語現地語併記の関連図書

中東・北アフリカに関連する図書は一万七三三五冊である。地域別に配架されている一九九八年一〇月以降に受け入れた資料について、国別の内訳をみると、中東全体を扱う資料が最も多い（図1参照）。続いてトルコ、エジプト、イランといった大国や、紛争を抱えるイスラエル、イラク、パレスチナ、アフガニスタンの資料数が多くなっている。湾岸諸国に関する資料の少なさは研究蓄積の少なさを反映しているものと思われるが、近年注目を浴びており研究者数も増加していることから、今後充実していくことが予想される。またエジプトを除く北アフリカ諸国については研究の規模からすると蔵書数が少なく、収集に力を入れる必要がある。

## ●現地語（アラビア語、トルコ語、ペルシア語）図書

主題別にみると、政治が圧倒的に多く、経済、社会が続くという傾向は変わっていない。どの国についても政治がほぼ大半を占めており、経済関係資料が比較的なのは、中東・北アフリカ全体、トルコ、エジプトとなっている。近年の変化としては、ジェンダー研究の蓄積に伴い、ジェンダー関係資料が増加してきたことをあげられる。

## ●現地語（アラビア語、トルコ語、ペルシア語）図書

当館の多言語資料のなかでも、アラビア語図書は、中国語、韓国・北朝鮮語に次いで多く、六七二二冊を数える。またトルコ語図書は一三五八冊、ペルシア語図書は、七〇五冊となっている（いずれも統計資料は除く）。二〇〇七年に「イスラーム地域研究」プロジェクトの東洋文庫拠

点が行った調査によれば、当館のアラビア語図書数（統計も含む）は八二機関中第六位、ペルシア語図書数（統計も含む）は第九位となっている。

当館所蔵資料は、社会科学と、近現代史が中心だが、現地語資料については国によっては少数ながら文学作品も所蔵している。言論統制の厳しい国や資料の少ない国については、文学作品も貴重な研究資料として位置づけられるからである。主題別所蔵数では圧倒的に政治が多く、歴史、経済が続く。これは現地での出版状況を如実に反映したものである。しかし、少数ながら社会問題を扱う資料（例えば「湾岸諸国における若者とドラッグ」や「クウェート社会における離婚された女性」）も出版されており、こうした資料は極力収集するように心がけている。

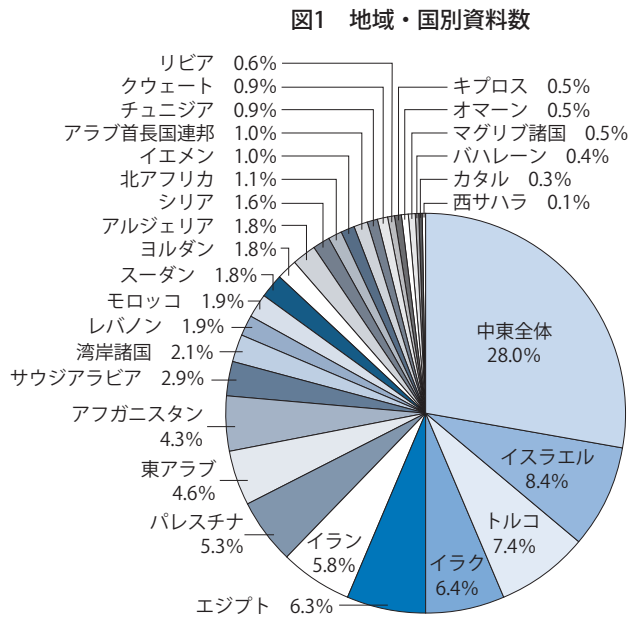
アラビア語図書を見ると、エジプト、レバノン刊行図書の割合が高い。これは両国の出版点数と流通量の多さによるものである。また、インターネット書店やメールによる出版リストの送付等、両国には国外への販売も積極的に行っている書店があり、連絡がとりやすいといった点もあげられる。し

かし近年では、インターネットでの情報収集等を通して、以前に比べて広く中東・北アフリカ諸国から資料を収集できるようになりつつある。

近年入手した特筆すべき資料として二点ほど紹介したい。

・『アルアルス』(花嫁) ダマスカス 一九二〇—二六 アラビア語

シリア初の女性雑誌。発行者は女性文学者のマリー・アジャミー。内容は、文学や歴史、料理や子供の養育等で女性に対する啓蒙書となっている。当館では初号から最終号まで所蔵しているが、



『統計資料』出版国・機関別の統計資料数(冊)は表のとおりである。膨大な人口センサスを含むイランが統計コレクションの約二〇%を占めているのが目を惹く。イランの統計資料については、「イラン—人口センサス資料はアジ研にあり」『アジ研ワールドトレンド』一一

直前までの状況を知る貴重な資料。

で出された新聞。オスマン帝国時代からイギリス委任統治領時代、イスラエル建国後第三次中東戦争

年によっては欠号が多く、また原紙を複製した号も含まれている。

・『フィラス・ティーン』紙 (パレスチナ紙) ヤッファ一九一一—一九四一

アラビア語マイクロフィルム

現在のイスラエルのヤッファ

表1 統計資料 国別所蔵点数

国名	冊数	%
1 イラン	2,328	20.4
2 トルコ	1,318	11.6
3 エジプト	902	7.9
4 クウェート	887	7.8
5 キプロス	697	6.1
6 モロッコ	678	5.9
7 アルジェリア	672	5.9
8 イスラエル	559	4.9
9 ヨルダン	524	4.6
10 シリア	389	3.4
11 チュニジア	381	3.3
12 サウジアラビア	269	2.4
13 スーダン	268	2.4
14 リビア	214	1.9
15 オマーン	217	1.9
16 国連西アジア社会経済委員会 (ESCWA)	188	1.6
17 イラク	177	1.6
18 レバノン	172	1.5
19 パレスチナ	137	1.2
20 アラブ首長国連邦	109	1
21 パハレーン	98	0.9
22 イエメン	97	0.9
23 アフガニスタン	81	0.7
24 カタール	39	0.3
計	11,401	100.1

(注) CD-ROMを含む。四捨五入のため、%の合計は100にならない

一号(二〇〇四年一月)に詳しく述べられているので、そちらを参照されたい。

統計年鑑 (Statistical Abstract, Statistical Yearbook等タイトルは様々) やセンサス、中央銀行の年報は、どの国についても収集対象としている。統計年鑑のうち一九六〇年より前から継続的に収集されているのは、表2のとおりである。他の分野の統計については、各国の出版状況や研究動向によって収集状況は異なる。また近年ではジェトロ本部にあるビジネス・ライブラリーが貿易統計を中心に収集していることから、当館では労働や社会に関する統計の収集により力点をおいている。

を反映しており、通時的に閲覧すると興味深い。例えばシリアの統計年鑑は、エジプトとの連合(一九五八—六一一年)を反映し、一九五七—六〇年はUnited Arab Republic Syrian Regionの名前で発行された。またクウェートの統計資料では、イラクのクウェート侵攻(一九九〇年八月)をはさんだ数カ月間は欠損値となっているものが多い。

現在では、中東・北アフリカ諸国においても統計局ウェブサイトの整備が進み、統計データの多くをインターネット経由で入手することができるようになってきた。また統計資料も多くが冊子体からCD-ROMに移行しつつある。ウェブサイトで公開しているため出版中止となった資料もある一

表2 統計年鑑所蔵状況  
(1960年より前から所蔵のあるもののみ)

国名	所蔵期間
エジプト	1912-1939 (マイクロ)、1968-2010
イラク	1947-1988
シリア	1948-2009
チュニジア	1954-2008
モロッコ	1954-2006
キプロス	1955-2008
ヨルダン	1958-2007

(注) 欠号を含む

方、古いデータはウェブサイトで削除される例もあり、統計資料の収集方法は検討すべき大きな課題となっている。

### ●官報・各国法令集

法律も基礎的な研究資料のひとつである。現在では関連省庁のウェブサイトに法律のテキストが掲載されていることも多い。しかしウェブサイトに現在有効な法律しか掲載されていないことが多く、改正の履歴や過去の法律との比較を行うには、冊子体の資料に当たる必要がある。

法律資料の出版状況は国によってまちまちで、何十巻にもなる法令集が出版されている場合があるが、多くは個別の法律(例えば「ク

ウェート民法」「シリア社会保険法」等)単位で資料が発行されている。出版者は民間出版社が多いが、関係省庁や法務省のような公的機関の場合もある。中東・北アフリカ諸国の法律については、商法等企業活動に必要な一部の法律の英訳があるのみで、ほとんどは現地語による出版となっている。

法律のテキストが掲載された原典としては、官報が最も信頼性の高い資料ではあるが、ある程度継続的に収集されていないと利用価値が低い。当館で一〇年分以上の所蔵があるのは、アフガニスタン、アルジェリア、エジプト、サウジアラビア、トルコ、リビアとなっている(マイクロフィルムを含む)。中東・北アフリカの官報の所蔵状況について詳しくはウェブサイト([http://opac.ide.go.jp/region/japanese/middle\\_east/status.html](http://opac.ide.go.jp/region/japanese/middle_east/status.html))に掲載しているので、そちらを参照していただきたい。

当該国の法律が網羅的に収録されている法令集は便利かつ重要な資料である。近年入手した法令集について簡単に紹介したい。

- ・「ヨルダン法令事典」全二八巻 一九九八―九九
- 一九九八年に第二四巻までが出

され、この後の改正を反映させた補遺四巻が一九九九年に出された。各法律のテキストが掲載されているが、改正の履歴や解説等はない。資料としては古いがこれ以降にヨルダンの法令集の出版はないため、重要な資料である。

- ・「アラブ首長国連邦法」官報で公布された立法集」全三一巻 二〇〇四年

- ・「レバノン法」立法及び行政テキスト集成」全二四巻 二〇〇一

Sadii出版社が出版している。どちらも省庁毎に関連する法律、省令等が収録されており、法律の全容を知るのに非常に役立つ。レバノンの法令集には古いものではオスマン帝国時代に遡る法律も収録されている。

### ●今後の収集について

中東・北アフリカコレクションに限ったことではないが、インターネットの発達は資料情報の入手や現地書店とのやりとりを容易にする一方で、ウェブサイトでの情報発信を促進し冊子体の出版文化を衰退させつつある。統計資料の出版にこの傾向は顕著だが、政府刊行物や研究機関の刊行物もオンラインのみでの発行となったものが

ある。かつては灰色文献としてアクセスが困難だったこうした資料を、利用者が自宅にいながらにして入手できることは非常に喜ばしいことだ。しかし他方、図書館では著作権の関係でこうした資料の収集は難しい。また図書館の資料はどうしても情報の鮮度という点ではインターネットにかなわない。いずれなくなる可能性の高いウェブサイトに上の資料をどう収集するか、新しい情報がインターネットで次々に流れるなかでコレクションをどう構築し、何を提供するか、図書館にとつての今後の大きな課題である。

(たかはし りえ/アジア経済研究所 図書館)

### 《参考文献》

- ① 柳谷あゆみ編『日本におけるアラビア文字資料の所蔵及び整理状況の調査』人間文化研究機構(NIHU) プログラム「イスラム地域研究」東洋文庫拠点
- ② 「発展途上国の統計資料 一七 総合統計(二六)―(二八) 中東①―③」『アジア研究ニュース』一四四号―一四六号(一九九三年六月―八月)